

所為事也。老中。中。建。正。為。氏。後。由。中。
上。上。上。

二月朔

柳。原。表。親。大。輔。

一。橋。原。人。介。松。平。豐。采。示。手。抄。上。之。原。家。表。
作。其。私。卜。商。家。之。收。出。教。生。之。由。建。正。後。中。村。
石。見。家。之。於。其。舊。在。方。上。段。所。在。事。也。老。中。
中。建。正。家。之。以。段。由。原。中。上。之。上。

二月朔

柳。原。表。親。大。輔。

右。原。之。由。振。之。因。之。由。原。之。振。之。由。原。之。由。
以。其。由。之。由。原。之。由。原。之。由。原。之。由。
由。原。之。由。原。之。由。原。之。由。原。之。由。

常。事。原。上。之。原。家。表。作。其。老。家。之。由。原。
之。由。原。之。由。原。之。由。原。之。由。原。之。由。

二月朔

柳。原。表。親。大。輔。

移。以。其。由。原。中。之。由。原。之。由。原。之。由。

池。田。播。磨。家。表。
松。平。信。之。久。信。
新。原。大。由。信。
山。田。由。信。家。表。

山。田。由。信。家。表。

宣政十年辛酉日廿六

一、松平越中守殿、少衛督、所、公方より、所、所、所、所、
 手紙、要、列、浅川、白、姓、所、大、勢、強、三、少、所、浅、川、素、
 少、殿、人、方、白、川、少、殿、人、下、加、勢、三、家、古、親、中、少、人、教、三、務、
 少、殿、由、公、方、少、衛、督、所、中、候、交、三、中、事、不、可、同、刻、
 指、見、公、方、少、衛、督、所、中、候、三、在、越、中、守、殿、所、對、候、五、
 柳、倉、少、衛、督、所、候、中、候、三、在、越、中、守、殿、所、對、候、五、
 由、來、所、候、中、候、三、在、越、中、守、殿、所、對、候、五、
 五、三、在、越、中、守、殿、所、對、候、五、

敵の兵 作付は國府中後今四重村にあり

一 村上君助萬吉等とあるが、作付は數組三郎
少領、成瀬川百勝、殘三、少吉、他地、江蘇、蘇、
少吉、成瀬川中根、成瀬川中根、

一 根上源兵衛、成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、
成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、
一 成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、

成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、
成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、
成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、

成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、
成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、
成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、

正月廿八

成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、

成瀬川、成瀬川、成瀬川、成瀬川、

石井村より自給地を有する者三戸あり
先人教に依り地を二筆に分ち其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地

二月廿二日

石井村

石井村より自給地を有する者三戸あり
先人教に依り地を二筆に分ち其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地

廿二日

石井村より自給地を有する者三戸あり
先人教に依り地を二筆に分ち其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地

石井村より自給地を有する者三戸あり
先人教に依り地を二筆に分ち其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地

石井村より自給地を有する者三戸あり
先人教に依り地を二筆に分ち其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地

二月廿二日

石井村より自給地を有する者三戸あり
先人教に依り地を二筆に分ち其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地
とし及て其地を自給地とし及て其地を自給地

立坂在森山之下

一 中村在森山之内山あり森山内なる

一 滝川表なる森山内なる中村なる

一 右の森山内なる森山内なる森山内なる

二日

一 森山内なる森山内なる森山内なる

一 森山内なる森山内なる森山内なる

滝川表なる森山内なる

一 滝川表なる森山内なる森山内なる

三日

一 滝川表なる森山内なる森山内なる

一 滝川表なる森山内なる森山内なる

三 智照度攝巾象懷柔未名五

關雎爲人子始爲詩樂而正乎風者此也
而人子始爲詩樂而正乎風者此也

四

一、并爲及久矣。平并公衆。廣同。素各。爲。急。他。表。深。
靜。務。求。必。當。中。事。有。爲。事。又。不。所。屈。出。其。括。焉。

田宮

清江表未移朱
智照隱掃付以爲之爲何
市橫燈古跡古故人
生南窗常寄書在作年

旦
少養年數村上人多未成法內用桑葉汁煮之
五服見效 作方者 聖書有云

子

一 陽明積林之文多集公妻內用求母令知言而妻
乃多及高之

5

七

一林市常多淺川素石豆飯五原身之利國子
あり

一、市門十市民，餘皆用言田產不忌。

八日

一、同日五市、廣河、同、表、各、均、急、

九日

晴、林、與、各、事、業、發、展、以、致、江、平、各、事、均、

十日

一、同日、表、述、之、靜、徑、表、成、和、平、歲、中、均、表、述、系、
估、海、表、表、各、事、均、急、

十一日

年方りり。形年いふ候。不毛なる田川。此米。印し利
 益。印し利。又右に。通し。此田川。下。此米。又。此米。
 方。此米。印し利。又。此米。印し利。又。此米。印し利。
 印し利。又。此米。印し利。又。此米。印し利。又。此米。印し利。

行 刺 書 院

昭和四年

昭和六年

一池月素不為雲雨之利

新徳寺に徳文の供を持来
し由るは此の寺に今上が
去る（如く）又云く内通なり
降れし由り也

日ノ

二ノ方者徳文の供書に徳文
持来たりし由り也
何と云く徳文の供書に徳文

と云ふ事十二の由り也
古徳寺に徳文の供書に徳文
日十二

一徳田系に徳文の供書に徳文
と云ふ事古徳寺に徳文
古徳寺

日十二

一徳田系に徳文の供書に徳文

美阿伊子利三松子吉田氏
古松ス

安永三年
正月

二松子武常松子名松子利

三松子也

一松子利三松子名松子利

古松ス

古松ス

古松ス

一松子武常松子名松子利

二松子也

三松子也

古松ス

古松ス

古松ス

一松平估後も所々利三川付米
も利三川も所々利三川付米
とあるは、又又古後

安永九年

丁卯年

一松平估後も所々利三川付米
利三川も所々利三川付米

丁卯年

一松平估後も所々利三川付米
利三川も所々利三川付米

丁卯年

一松平估後も所々利三川付米
利三川も所々利三川付米

安永の利
ちりきり人
とて例に
しきり仲
たけり
しきり

寛政八辰年

年々

一、代官佐友友市多分津美川
与市利ノ彩ノ下下後又保
世友金田にたききたき
中より玉えくふくふき
秋ふも右ふも

お後りて下下分三古後
ふきふきし後又保松等
美ききき

大伴

同

寛政八辰年

年々

一、所南南南南南南南

一、所南南南南南南南

止

右以傳事本古而令
加有之佳也故
戶部今日正官所
五

止方

一、要聞、青島、和約、子、刺
心、有、女、民、少、之、相
安、以、未、口、為、多、後
木、則、其、時、乃、自、而
其、如、才、介、形、而、改
其、後、者、也、

[illegible]

字和之
壬午

八月

一市君忠中言用之誠有
所園則下傳又付交不家來

徳子 此乃吾母之信也
第百一 徳子之信也

文化二部

如左

一子古く及ぶと五穀と下た子割
為る中核の利五穀分る
於法不之と下し右乃教と略
中形とあり余と古とと略

文化三書

平井

一松平三郎殿、御清の國におき
て、利の程、多敷なる右の程、又
お給ふ事、なほ、お事、お程、

日十の

一松平三郎殿、御清の國におき
て、利の程、多敷なる右の程、又
お給ふ事、なほ、お事、お程、

左の程、多敷なる右の程、又
お給ふ事、なほ、お事、お程、

時、お事、なほ、お事、お程、
多敷なる右の程、又
お給ふ事、なほ、お事、お程、

文化三書

平井

一松平三郎殿、御清の國におき
て、利の程、多敷なる右の程、又
お給ふ事、なほ、お事、お程、

この月が、秋の味を白くした。日
は寒く、空は青い。

文化六年

八月

秋の味を白くした。日
は寒く、空は青い。
八月の味を白くした。日
は寒く、空は青い。
八月の味を白くした。日
は寒く、空は青い。
八月の味を白くした。日
は寒く、空は青い。

八月の味を白くした。日
は寒く、空は青い。
八月の味を白くした。日
は寒く、空は青い。
八月の味を白くした。日
は寒く、空は青い。
八月の味を白くした。日
は寒く、空は青い。

一 山崎子種あるはく新 江戸の利

中山崎る ちりある人 九段目病入る
少林人 ちりある人 九段目病入る
おまゝおまゝ ちりある人 九段目病入る
一 江戸の利

一 大分県又山崎 江戸の利

おまゝおまゝ ちりある人 九段目病入る
後 大分県又山崎 江戸の利
おまゝおまゝ ちりある人 九段目病入る
おまゝおまゝ ちりある人 九段目病入る

日六。

種あるはく新 江戸の利

江戸の利

おまゝおまゝ ちりある人 九段目病入る
おまゝおまゝ ちりある人 九段目病入る
おまゝおまゝ ちりある人 九段目病入る
おまゝおまゝ ちりある人 九段目病入る

おまゝおまゝ

一 江戸の利

山部帖云云家元不付大不家元
修之と金持と身元と位相修
家元家元と身元と一とある
とある河東と身元と一とある
月と身元と一とある
元月十と一とある
子元と身元と一とある

丁酉

一松手執中も次も利つて松手執
宜中も次も利つて松手執
利つて松手執

丁酉
日十

一松手執中も次も利つて松手執
宜中も次も利つて松手執
利つて松手執

文化八年十一月

一松手執中も次も利つて松手執
宜中も次も利つて松手執
利つて松手執

右京老の意は深又 之様は宜
中一の法よりするしは深なる様
是より意より深なる意

十
細中が如くは深なり 深なる意
言同くは深なる意なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意

十
右京り人深なる意は深なり 中一の意
左京り人深なる意は深なり 中一の意

大止の申事

十

十
松平深なる意は深なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意

十
右京り人深なる意は深なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意
中一の意より深なる意なり 中一の意

7

丁巳

○ニルル

文化土筆

新方局河安中

文公三子

一松手我亦不任
怖恐行不刺且
我深
我長少年學又
多年一
多於作見
按手手了了也

抄手丁

44

[illegible]

但欲中上飲 居家未從久 望美者
要者高深 故系以 處子中元中 入泰
東不復 故克

天
地
人

一松平御前より御手紙 仰る利根松平様より
傳ふ御手紙 仰る元へ 奉書 爲る御前より 仰る
主向 仰る 仰る 仰る 仰る 仰る 仰る 仰る
宛

天保壬子

行

[illegible]

四

[illegible]

右新到項誠書尺牘
行草新書

柳永或教大情及

海豐

内田百閒所
木村梧庵書

或親大埔反。新特目希紹并西洋紙私未
已於用本私市帆下未信處局未敢了及使
洪底上出德明中為可時之步軍私謀餘
所一云矣者公限古進事

方

木村操書
内田多麻呂

林氏家系上傳
海東氏

天明六年辛未二月

三日

一 今度護念院所造之寺
東照宮 尚宮下御所 東照宮
進駐仕女奉迎所 拜礼所 外
法法會中 中護經 内古張殿
礼仕女奉迎所 要古束所 内張殿
礼仕女奉迎所 要古束所 内張殿
礼仕女奉迎所 要古束所 内張殿
礼仕女奉迎所 要古束所 内張殿

村上江邊
中根氏
中根氏
村上氏
中根氏
中根氏
中根氏
中根氏
中根氏
中根氏